

【中学校】第3学年・音楽「音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう」
ねらい：構成や音の重なり方の特徴を生かした表現の工夫について、思いや意図をもつことができる。

活用のポイント

- ・デジタルコンテンツを活用することで、音楽経験が少ない生徒でも簡単にリズムフレーズを創作することができるようにする。
- ・班活動では、創作したリズムフレーズの楽譜を見せ合ったり再生して音で伝え合ったりすることで、一人一人の思いを生かして班の作品をつくり上げるとともに、友達と試行錯誤しながら創意工夫し、表現する楽しさや喜びを味わえるようにする。



機能：学習者用デジタル教科書デジタル教材（リズムづくり）

■学習活動例（太字がデジタル教科書の主な活用場面）

ねらい・期待される効果等

		活動内容
導入	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・既習のリズムフレーズを復習する。 ・既習事項である音の重なり方について、例となる動画を示し、本時の見通しをもつ。
	課題と学習内容の確認	
展開	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で作ったリズムをつなぎ合わせながら創作する。
	グループでの創作	
	グループでの追究	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなリズムにしたら効果的かを、音を出して試しながら考える。 ・グループで話し合い、組み合わせ方を工夫するなど、リズムを見直す。
	グループでの練習	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品をグループで練習しながら確認する。 ・できあがった作品の楽譜をワークシートに記入する。
まとめ	グループ 個別 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の取組を振り返り、次時の課題を設定する。

学習者用デジタル教科書の活用例

- ・リズムカード(音符)を並べてリズムづくりをする。個人で作ったリズムをつないで班の作品を完成させる。
- ・できあがったリズムを再生して確認する。



出典：教育芸術社 中学校の音楽2・3下

画面上の音符カードをドラッグすることで、簡単にリズムを組み合わせることができ、音楽経験の少ない生徒でも試行錯誤しながら自分なりのリズムパターンをつくることできる。（生徒）

創作したリズムパターンは、楽譜として記録できるだけでなく、再生機能を活用して音でも確認したり伝え合ったりすることができ、グループでの創作活動や練習等をスムーズに進めることができる。（生徒）

- ・デジタル教科書で作成したリズムの楽譜を自分のワークシートに写す。

デジタル教科書で作成されたリズムの楽譜を、再生する音と対応させながら確認することができ、リズムについての理解を深めることができる。（生徒）